

仲間よ生き延びて 祈りの詩

写真は砲撃と爆撃の下で、地下に避難している障害者ら=3月(朝日4月5日朝刊)。
表題のタイトルの詩は、日本障害者協議会(JD)代表で、視覚障害のある藤井克徳さん(72)が書き、ウクライナ語などに訳されている。爆撃を受けた街にいる障害者らから感謝の声が届いているという。心に響く詩を紹介したい。



戦争は、障害者を邪魔ものにする
戦争は、障害者を置き去りにする
戦争は、優生思想をかきたてる
大量の障害者をつくり出す最大の悪、それが戦争
朝一番のニュースを恐る恐る
キエフの包囲網がまた狭まった
教会も文化財も悲鳴を上げて崩れ落ちる
禁じ手が反故にされ原子力発電所から火の手
殺し合いでなく話し合いを
侵攻でなく停戦を
停戦でなく平和を
青い空と黄色の豊作に似合うのは平和

私たちは祈ります
西北西の方角をじっとみつめながら
心の中から希望が切り離されないように
とにかく生き延びてほしい
戦争は、障害をたちどころに重くする
戦争は、障害者の尊厳を軽々と奪い去る
戦争は、障害者の明日を真っ黒に塗りたくる
早いうちに、否、この瞬間に終わらせなければ

もう一度くり返す
とにかく生き延びてほしい
たとえ、食べ物を盗んでも
たとえ、敵兵に救いを乞うてでも
遠い遠い、でも魂はすぐ傍の日本より

(2022年4月8日)